

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
ES11A009		教員の社会的役割と自己啓発(Theory and Practice of Social Role and Self-development of Teachers)					共通科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2	1	大学院教育学研究科	後期		氏名 大島崇、有定裕雅 E-mail oshima@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	教員の社会的役割や自己啓発に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策に関する実践的知識について深い理解に基づき説明できる																				
目標2 現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策に関する学校現場の事例を題材として現状の課題を発見できる																				
目標3 現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策に関する学校現場の現状の課題に対し具体的な対応策を立案できる																				
目標4 教職生活を通じた学びに関する理論や実践的知識について深い理解に基づき説明できる																				
目標5 教職生活を通じた学びに関する学校現場の事例を題材として現状の課題を発見できる																				
目標6 教職生活を通じた学びに関する学校現場の現状の課題に対し具体的な対応策を立案できる																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 教師の学習を促す条件・阻む条件																				
2 教員の専門性開発に関する現代的課題																				
3 教員の専門性開発と省察(1) ショーンのリフレクション論																				
4 教員の専門性開発と省察(2) 二人称的アプローチ																				
5 ALACTモデルによる省察の実践事例																				
6 省察的な教師を育む指導プロセス																				
7 ビデオを活用した省察(1) ダブルループ学習としての省察																				
8 ビデオを活用した省察(2) 意味の発見と可能性の創造																				
9 専門職としての学習コミュニティづくりと省察																				
10 省察モデルを活用した模擬授業検討会(1) 計画																				
11 省察モデルを活用した模擬授業検討会(2) 実施																				
12 省察モデルを活用した模擬授業検討会(3) 逐語記録の分析・省察																				
13 ビデオを活用した模擬授業検討会(1) 計画																				
14 ビデオを活用した模擬授業検討会(2) 実施																				
15 ビデオを活用した模擬授業検討会(3) 逐語記録の分析・省察																				
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認		B:意見の表現・交換		C:応用志向		D:知識の活用・創造		ミニッツペーパー、予習(文献の精読)、復習(学びの省察)、プレゼンテーション、ディスカッション、模擬授業検討会の実施		工 夫	そ の 他 の								
時間外学修の内容と時間の目安	準備 教員の指示に従い、課題文献を精読すること。 学修 その他、教員の指示に従い、授業の準備を行うこと。 事後 演習において討議したことを整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、到達点を整理すること。 学修 その他、教員の指示に従い、授業の復習を行うこと。																			
教科書	特になし。授業中に指示する。																			
参考書	コルトハーゲン(編著)、武田信子(監訳)(2010)『教師教育学』学文社 佐伯胖・刑部育子・苅宿俊文(2018)『ビデオによるリフレクション入門』東京大学出版会																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取組む姿勢、討論への参加等)	70%																		
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																		
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																			
備考	現職院生・学部卒院生の混合のグループにおいて、設定したメンタルヘルスの問題事例に即してロールプレイングを行うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	有定裕雅：大分県立高等学校教員・校長、大分県教育委員会職員
実務経験を いかした教 育内容	教員の社会的役割や自己啓発に関する学校現場の課題の析出と対策の立案